

## 緑の学園を開催しました

進路を考える時期にある、農業を学んでいる高校2年生を対象に、農業経営への興味と関心を深め、就農への意欲を高めてもらうことを目的に「緑の学園」を8月1日実施しました。農業関係高等学校校長会、農業大学校、国際園芸アカデミーの共催で開催し、県内7つの農業関係高校から28名の生徒さんに来校いただきました。

開会にあたり、加茂農林高校丹羽校長先生より「現在それぞれの高校で、将来農業の担い手となり農産物のブランド化や住みよい農村づくりに携われるように学んでいる皆さん、本日は夢が目標となるターニングポイントになると思います。先輩の苦労話等を聞いて農業経営について学び、県内の同世代の生徒同士語り合い、人脈作りをしてください」と激励のあいさつをいただきました。

「野菜」「果樹」「花き」「畜産」の4つのコースに分かれた体験実習では、指導職員や本校学生の指導の下、スイートコーンの糖度調査、パプリカの摘果、トマト鉢上げ用ポット土詰め、柿の仕上げ摘果、肉用牛や乳牛の扱い方や畜舎管理、トルコキキョウの収穫、ラウンドブーケ作成などを体験してもらいました。教える立場になった学生は、先輩らしく積極的に説明をしていました。

若手農業者(農大卒業生)と語る会では、酪農で雇用就農した小野木さん、独立自営就農でいちごを栽培している春日井さん、後継就農で鉢花、ポット苗を生産している金子さんの3名にきていただき、私と農業～農大卒業後の歩み～と題して農業を目指そうとしたきっかけや現在の経営、夢について話していただきました。

また、その後3グループに分かれて「私がやってみたい農業」について、若手農業者の助言をもらいながら生徒同士で夢や悩みを話し合いました。

「本日の体験を通して同世代の生徒同士交流ができ、また自分の進路に活かしていくターニングポイントになったのではないかな。自分がやりたいことをはっきりさせることは、夢をつかむ一番の近道。考えながら今後も学習してほしい」と飛騨高山高校森先生より講評をいただきました。

参加した生徒からは、「自分と同世代の人がどんな考えをもっているのか、どんなことを

したいのかいろいろ聞いて、そういう考えもあるのかと考えさせられ、自分の考えをまとめなおすことができた」「座談会では普段言わない悩みや考えを言えた」「就農者の方から専門的なことではなく、これからの人生においてたいせつなこともたくさん聞くことができた。座談会がきっかけで自分のやりたいことをはっきりできた。この研修に参加して良かった」「先輩や先生方から農業大学校の魅力をたくさん教えて頂き良いところだなあと思った」など感想がよせられました。



〈開会あいさつの様子〉



〈柿の仕上げ摘果について農大学生から

説明を聞く参加高校生〉



〈収穫したトルコキキョウを調整する参加高校生〉



〈若手農業者(農大卒業生)と語る会の様子〉



〈座談会の様子〉